

紙上架空対談

紅白応援合戦

紅白応援合戦は大会の花形。紅組は男性6名、女性20名。白組は男性12名、女性15名の合わせて53名が5月20日に決闘。1ヶ月近い連日の猛練習の成果を見せた。これは、関係者の話を紅白応援団長の対談形式にまとめたもの。



紅組応援団長 長谷川 善子さん

●紅組団長 長谷川善子さん
○白組団長 田平 康正さん
田平 白組は、経験豊富な中野陽子さんにすべておまかせして、ゴールデンポナーの「女々しくて」に。長谷川 白が洋物で行くらしいとの情報があったので、紅は和物で行くこと、銭太

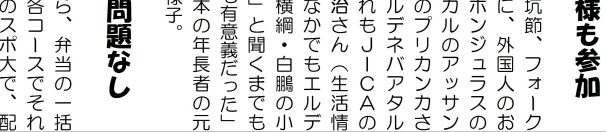
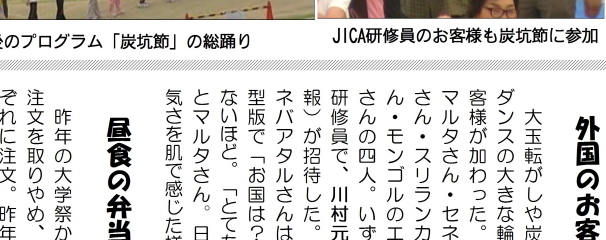
鼓を使った「おこさ節」に決めました。
田平 それにしても各コースから選ばれた団員の皆さん、猛練習によくついてきてくれましたね。
長谷川 全くです。わずか5分間のためにこの努力ですから、次回からは演技の時間をもっと少し長くしてほしいな、と思います。
田平 五月下旬からほとんど毎日練習だから。せめてアンコールしてほしかった。

長谷川 観客席の応援に力をもらいました。紅組はほとんどの人が赤シャツで。
田平 それは、白組も同様です。頑張った団員たちは、口々に達成感があったと話していました。これをこのまま終わらせるのは勿体ないので、各種イベントに出前したいと思えます(笑)。



熱演中の紅組応援団「おこさ節」
写真右 白組応援団「ゴールデンポナー」「女々しくて」写真下
孫に手を引かれて(写真上)
輪投げが難航中写真左上「いずれも」「手をつなごう」
全身真っ赤な健康づくりサポーターコース応援団長の天野さん(写真右)

第20回 ふれあいスポーツ大会 Photo アルバム



前半最後のプログラム「炭坑節」の総踊り

委員会議事録から
開閉式：開会式終了直後に選手入場となったので、トイレ休憩がほしかった。
大玉転がし：大玉に触らなかつた人もいたので、輪を大きくしては、二列で入場するとき、内外のバランスを調整する必要あり。
手裏剣：お孫さんの走る距離が長すぎるのでは。入場時と出走時の、お孫さんとの順番が狂った。狂わない

工夫が必要。
穴生まき：距離が短すぎる。ルールの徹底が必要。取るカードの色を指定したが、カードの色は自由にできる。必要だったのでは。来賓にも

あんなこと・こんなこと
大会関係者に聞く
出場してもらっては。音響効果に「工夫
今年初めてスポーツ大会を担当したのが北田貴子指導員。場内は昨年年度の実行委員会からの「選曲やタイミングの改善」の申し送りを受けて、選手入場にはマー

手ぎ、競技には間延びしない曲を、例えば「旧友」や「天国と地獄」などを選んだ。実際にCDとカセットテープの両方が使える機器を巧みに操ってタイミングを外さなかつたのは、セカンドライフ支援課の山本富美恵さん。事前にシナリオはあったものの、実際にはハプニングの連続。その場その場の動きに合わせて機器の操作に苦心した。お蔭で、研修生からの評判も上りだった。

可愛いイラスト付き
校歌斉唱を受け持ったのがコースコースの16名。歌詞を覚えていないメンバーがほとんど。カンニングペーパーも出たが、いっそ歌詞カードを見て歌おうと衆議一決。本番では、可愛いイラスト付きの歌詞カードで見事に決めた。「あれは、演出？」とは周囲の声。

外国のお客様も参加
大玉転がしや炭坑節、フォークダンスの大きな輪に、外国人のお客様が加わった。ホンジュラスのマルタさん・セネガルのアッサンさん・スリランカのプリカンカさん・モンゴルのエルテネバアタルさんの四人。いずれもJICAの研修員で、川村元治さん(生活情報)が招待した。なかでもエルテネバアタルさんは横綱・白鵬の小型版で「お国は？」と聞くまでもないほど。「とても有意義だった」とマルタさん。日本の年長者の元気を肌で感じた様子。

昼食の弁当問題なし
昨年の大学祭から、弁当の一括注文を取りやめ、各コースでそれぞれ注文。昨年のスポーツ大会で、配達が大層に遅れて一部に混乱を生じたために取られた措置。今年は各コースとも遅れはなかつた。

威勢の良さを白組
「紅組は、どうやら赤い回廊を作るらしいぞ」との情報を得た白組、早速ベクトル・マラカス作戦を思い出し、各自が空のベクトルを二本ずつ用意。中に大豆でも小豆でも、音さえ出れば小豆でもかまわず入れた、大きな音が出るように工夫した。さらに、赤はご法度だが、それ以外なら何色でもOKの絶縁テープを巻いて補強した。この即席マラカス、応援合戦では白組全員がリズムよく両手で振って応援。「威勢の良さを負けんばい」と自画自賛。

コース応援団も活躍
各コースの応援席で、紅白それぞれに存在感を見せた団長がいた。紅組の天野智之さん(健康づくりサポーター)は、赤いソングレロに上下赤のトレーナー、赤の靴と、さながら井伊の「赤備」。紙花の番傘を揺らす応援席を独自の踊るような手振り舞うまで指揮。かたや白組の国際情報コースは女性応援団長の原まつえさんを押しつけた。紙花を両手に持ったベクトル・マラカスを打ち振る応援席を三々七拍子でリード。

ふれあいスポーツ大会 見てある記